

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

山形県長井市

学校名

長井市立長井北中学校

学校のURL

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1、2年生4学級、3年生5学級 【特別支援学級】2学級【合計】15学級

児童生徒数

【全生徒数】350人（平成23年12月12日現在）
（内訳：1年生103人、2年生109人、3年生138人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】「たくましいからだたくましい心で 常に伸びゆく北中生」

【人権教育に関する目標】

「いのち輝かせ、未来を拓こうとする生徒の育成

～自分を見つめ、共に生きる力を育む人権教育を通して～」

人権教育にかかる取組の全体概要

4つのキーワード 「自尊感情・自己有用感」「自己決定」「コミュニケーション」
（常に、生徒指導の三機能を意識して指導にあたる。）

学校教育全般を通じて推進するための4つの研究部

特別活動研究部：一人一人に活躍の場を与えたり、互いによさを指摘しあったりする活動の工夫

教科・道徳研究部：一人一人の考えや思いが大切にされ、共に学ぶことよさを実感できる学び合いの工夫

まちなか科研究部：自己決定の場を取り入れた、人とかがわる喜びや人のために役立つ喜びを実感できる多様な交流・体験活動の工夫

調査・連携研究部：生徒の実態や研究の成果を調査・分析すると共に、中1ギャップの防止、人権教育に応える小中連携の推進策を探る。

昨年度まで取り組んでいた「キャリア教育」を基盤とした取組

3. 特色ある実践事例の内容

特別活動で自尊感情を育てる（特別活動研究部）

「よいとこ川柳」と「Happy Letter」

偶数月に、それぞれ時期にあったテーマ（行事、日々の仕事、学習での頑張りなど）を設け、取り組みの様子から仲間のよいところを川柳や手紙形式にして相手に渡し、その後掲示するというものである。これにより、仲間のよいところを見る目を養うとともに、自分のよいところに気づかせてもらって自尊感情を高めていく。

学校行事への取組カード

「My Legend」と称した行事への取り組みカード（自己目標・反省と課題・仲間のよいところ等の項目）を運動会と文化祭の前に配布する。そして、定期的に終わりの会で記入させ、担任が集めて目を通す。視点のよいものや取り上げたい表現が書いてあるものについては、終わりの会や学級・学年通信で紹介する。行事終了後には、取り組み全体を振り返り、まとめを行う。「自己目標設定」と「振り返り」の場面を持つことによって、自尊感情を高め、何事にも前向きに取り組む生徒を育てる。

「よいとこ川柳」が他からの指摘によるよさの気づきなのに対して、この取組カードは自分の中での成長や変化の自覚により自尊感情を高めようとするものである。

総合的な学習の時間で自己有用感を育てる（まちなか科研究部）

ふるさと観光PR事業「あやめんご」活動（平成22年5月）

ふるさとの観光PRを行うため6つのコースに分かれ、地域の方から芸能を学んだり特産物の学習をしたりする。

そして、修学旅行の時、長井市東京事務所のある東京都大田区梅屋敷商店街で披露したり地元の特産品を販売したりした。この活動を通して、生徒は「ふるさと長井」のよさに気づくとともに、活動の過程で多くの方から学び、ふれあうことで、人間関係形成能力（コミュニケーション力）や課題解決能力（自己決定力）を育てることができた。また地元紙の一面や市の広報誌に取り上げてもらったり、市長さんはじめ多方面の方々からお褒めの言葉をいただいたりしたことで、充実感・満足感を覚え、自己有用感を強く持つことができた。

（今年度も5月に行う予定であったが、震災のため中止となった。）

職場体験学習「Challenge Dream Week」（「校内ハローワーク」による職場の

- ・30人の生徒が一つの黒獅子を演じる黒獅子舞
- ・あやめ公園100周年を祝うあやめ太鼓の演奏
- ・ふるさとの味 そば振る舞いと玉こんにゃく販売
- ・競技用けん玉生産日本一の長井 中学生による演示



決定を中心に)

職場体験学習の意義や内容を説明した後、ハローワークの求職申込書を参考に作成した「北中求職票」を記入させる。そこには、CDWで希望する職場の他、これまでのキャリア(委員会・係・部活動等の仕事)からの自己アピール点や自分の長所やよさを書く欄を設けている。記入後には、面接を受けるための練習(部屋への出入り、あいさつ、質問への受け答え等)を行う。そして、求職票をもって面接官(学年の担当教員)の所へ行き、質問に答える形で職場の希望や意気込み、自分のよさやキャリアのアピールをしていくというものである。

生徒は、初めての面接ということもあり、緊張感を持って取り組んでいた。また、自分のよさを自覚し、真剣にアピールしようという姿が見られ、活動への意欲が高まった。

授業の中で自己決定力、コミュニケーション力を付ける(教科・道徳研究部)

保健体育の授業

- ・ 題材 「休養、睡眠と健康」

- ・ 授業の実際

ア 疲労回復の必要性を知る。

イ 疲労回復のための方法をグループで話し合い、全体に紹介する。

ウ 睡眠と疲労回復の関係を知る。

エ 自分の生活を振り返り、学んだことを今後の生活に生かそうとする。

- ・ コミュニケーション力について

イの場面で、話す側は、「理由や経験も付けて発表すること。」 聞く側は、

「同じ考えの時は、その理由や経験を伝えること。違う時は、初めて知った驚きや疑問を伝えること。」を話し合いのルールの一つにし、相手の考えを大切に話しかけ合いになるようにした。理由や経験を付け加えることで、発表が一方向的にならず、やり取りが続くと共に、内容も深まっていった。



- ・ 自己決定力について

エの場面で、自分へのアドバイスという形でまとめることにより、客観的に自分をみつめることができた。また、書き出し「あなたは今まで～」 「休養や睡眠は大事!これからは～」を与えることで、自己決定しなければならない事柄が明確になり、全員がまとめることができた。

道徳の授業

- ・ 主題名「あなたならどうする？」 価値項目 4 - (2) 公德心 / 1 - (3) 自主・自立・責任
- ・ 授業の実際

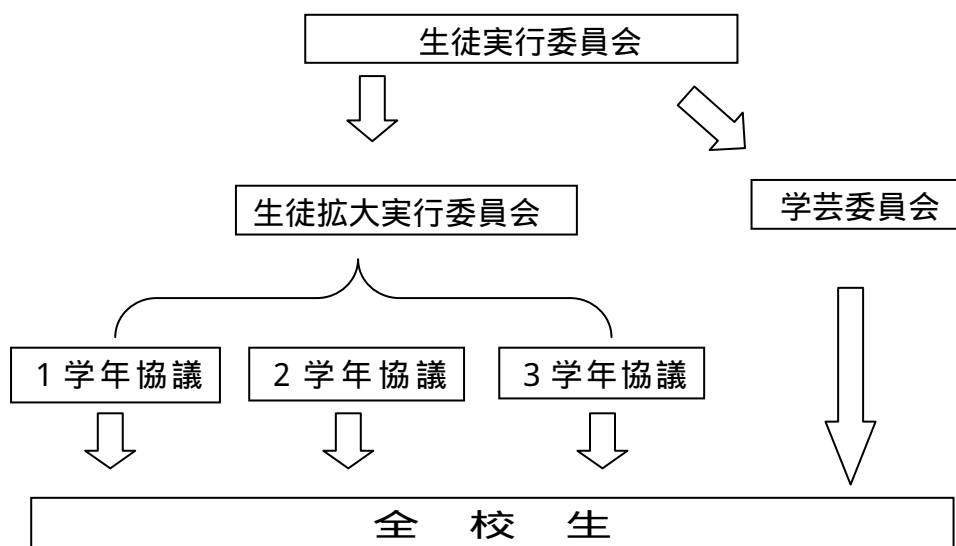
- ア 資料1 (傘の盗難について学年で問題になっている最中、雨の日、大介が、帰ろうとすると、自分の傘がなくなっていた)を読み、ペアで大介の心情をインタビューし合う。
- イ 資料2 (そこに友達の和明が来て、誰かの傘を借りていくように助言する。)を読み、大介は和明にどう答えたらよいかを考えて、ロールプレイングを行う。
- ウ 代表のロールプレイングを見て、良かったことを出し合い、「断る時のポイント」を確認する。
- エ 資料3 (修学旅行で、部活動の仲間が、寺院の柱に書かれた「中××部優勝」と書かれた落書きを見つけ、一緒に書こうと誘ってきた。)を読み、ウで学んだことを踏まえてロールプレイングを行う。
- オ 振り返りを行う(参考資料「モラルスキルトレーニングプログラム」林 泰成 編著)
- ・コミュニケーション力について
 - ロールプレイングをすることにより、他の人の立場に立ってその人の考えや気持ちなどを想像することができる。
- ・自己決定力について
 - モラルスキル(ウ・エ)をすることによって、実際の場での自己決定・行動に繋がるようにする。

学校行事で自己決定力、コミュニケーション力を付ける

文化祭

昨年度は、学校外の施設を会場にして文化祭を行ったため、学校での開催は、一からのスタートである。そこで、生徒による実行委員会を組織し、必要な仕事内容を洗い出し、1～3年生のクラス、13組で仕事を分担して進めることとした。

・組織：



・仕事分担：

学級で希望する仕事について話し合い、生徒拡大実行委員会で決定した。細部については(学級内の分担や計画・予定等)学級で話し合い、全員で仕事を進めた。仕事の進捗状況を実行委員会で報告し、調整しながら進めた。

内 容	担 当	生徒実行委員
全体計画・総括	実行委員会	委員長、副委員長
総合発表会	実行委員会	(.)
合唱コンクール	学芸委員会	学芸委員長
展示(2階ラーニング) 展示(1,2階西廊下) 展示(3階ラーニング) 展示(1階北校舎廊下)	1年4組 3組 1組 2組	1年協議会長
たて看板、合唱コンめくり 暗幕設置・校内配置案内図 しおり(生徒・一般客用) 案内状、ポスター製作	2年1組 3組 4組 2組	2年協議会長
ステージ装飾 社教玄関～体育館通路装飾 オープニングセレモニー クロージングセレモニー 生徒昇降口装飾	3年3組 4組 5組 2組 1組	3年協議会長 (.) (.)
広報 My Legend	実行委員会	(.) (.)

・コミュニケーション力・自己決定力について

ステージ装飾は、計画通りになかなか進まず、計画を修正し、仕事が進んでいる学級からボランティアを募り、大作を仕上げた。必ず間に合わせなければならぬ状況の中で、学級では、対策を話し合い、決定し、行動に移るまでの学習が行われ、コミュニケーション力や自己決定力を高めることになった。



<小さな色画用紙を貼り合わせて四つ切大にする>



<貼りあわせた四つ切大の画用紙をつないでステージ装飾に>

小学生との交流で、コミュニケーション力を付けると共に中一ギャップの防止を図る(調査・連携研究部)

小学校での朝のあいさつ運動

分担して、校区内の小学校に出向き、中学校で行っている「朝のあいさつ運動」を行う。

小学生に対して、中学生らしく挨拶をしなければならぬ状況を設定したので、自分から笑顔で挨拶ができるようになった。小学生も日増しに元気なあいさつを返してくれるようになり、



親近感を持って小学生と関わることができた。

年間指導計画

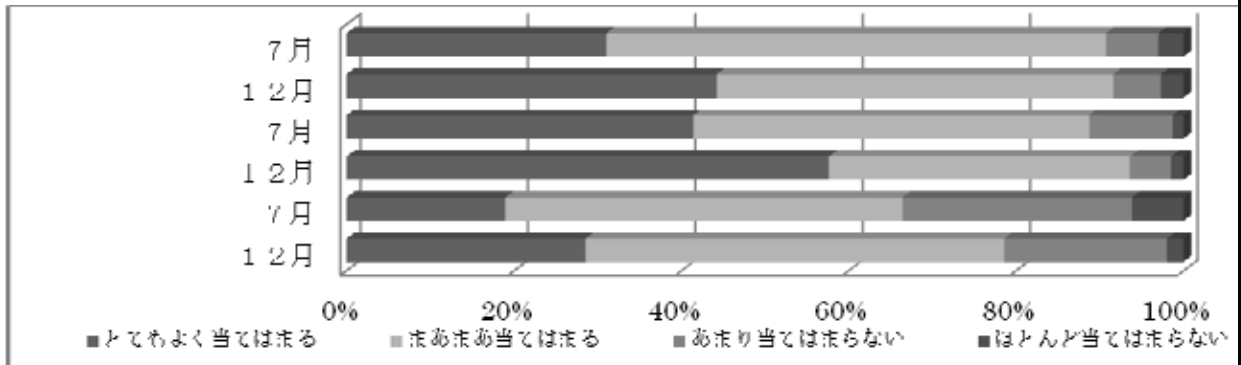
	特別活動研究部	教科・道徳研究部	まちなか科推進部	調査・連携研究部	その他
4月	・目標作り (月毎に自己評価)	第1回授業研究 国語・道徳 教科授業研究 (随時)	・随時、 アルミ缶回収 ・「ちょボラ」 (任意参加型) 第1回全校ボランティア(部毎) 第2回全校ボランティア(子供会毎)	・家庭訪問(わが子の良さを話題に) ・全保護者挨拶運動 ・1日参観日・壮行式(祖父母参観) ・1学期アンケート ・保護者会(わが子の頑張りを励ます) ・運動会招待 (小学生・祖父母)	・学校研究研修会 ・生徒理解研修会 ・自治活動の活性化 ・人権教育を意識した学級づくり ・SGEの実施 ・ソーシャルスキル ・「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」の実施 ・人権教育研修会
5月	・随時、人権教育・キャリア教育を意識した学級活動の実施				
6月	・ハッピーレター(仕事への取組)				
7月	・温か言葉募集				
8月		第2回授業研究 理科・英語・学級活動	総合的な学習の時間 1年ボランティア 2年CGW (職場体験) 3年あやめんご(修学旅行) 進路学習	・小学生部活見学会 ・1日参観日・壮行式(祖父母参観) ・小学校で朝の挨拶 ・文化祭招待(小6)	・毎月末「生活アンケート」実施 ・毎週金曜日生徒理解打ち合わせ ・毎月1回特別支援委員会会議
9月	・よいとこ川柳(運動会への取組)				
10月	・運動会取組カード	第3回授業研究 技術・家庭 保健体育 道徳	まちなか科発表会	・2学期アンケート ・保護者会(わが子の頑張りを評価) ・小中連携推進会議 ・中学校説明会	・研究のまとめ開始 ・研究のまとめと次年度に向けての構想
11月	・ハッピーレター(文化祭への取組) ・文化祭取組カード				
12月	・よいとこ川柳(学習面での取組)	道徳 1年思いやり 社会への奉仕 2年思いやり 勤労 3年思いやり 社会への奉仕			
2月	・ハッピーレター(学校生活全体)				

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

自尊感情・自己有用感について： 年2回の調査結果から、次のことが考察できる。
 ア 自尊感情や自己有用感を強め、自信や前向きな思考・態度を身につけてきている。
 イ 仲間と協力し認め合って学習や諸活動に取り組めるようになってきている。

グラフ上段：私には長所があると思う
 グラフ中段：協力し合って学習や活動に取り組もうとしている
 グラフ下段：将来のために今何をすべきか考え実行している



コミュニケーション力・自己決定力について

授業におけるコミュニケーションや自己決定の力は、手立てによってついてきているが、実際の場合では、人間関係のトラブルも多く、キャパシティの狭さと想像力不足が感じられる。実際の生活場面を想定したスキル学習も必要である。

(取組が効果を上げた実際の事例)

学校教育全般において、という広範囲の取組であるが、キーワードを用いて進めたため、目指す方向がぶれないで取り組むことができた。

(取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項)

今年度からの取組であったことから、職員研修を行った。「人権教育とは...」人権教育の指導方法の在り方について [第3次取りまとめ] 等を踏まえて」から」

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及び評価に対する理由)

各研究部で、計画的・継続的に教育課程全般にわたって取り組んだため、自尊感情や自己有用感が高くなってきている。自己決定・コミュニケーションについては、教科・道徳研究部での取組が、実際の場合での生きて働く力にはまだなっていない。

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

協力的・参加的・体験的な学習である特別活動やまちなか科(総合的な学習の時間)において、自己決定・コミュニケーションの場を工夫し、力を付けていきたい。今年度は、自己決定・コミュニケーションという、いわば態度的側面・技能的側面の指導に取り組んだが、平等・正義・人権の発展といった人権に関する知識的理解の学習を、今後どのように進めるかが課題である。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

長井市立長井北中学校

人権教育の目標を「自分を見つめ,共に生きる力を育む」と定め,「自尊感情・自己有用感」「自己決定」「コミュニケーション」のキーワードを設定し,常に生徒指導の三機能を意識しながら組織的,計画的に人権教育が実践されている事例である。

特別活動で「自尊感情」,総合的な学習の時間や職場体験学習で「自己有用感」,授業・学校行事・小学校との交流で「自己決定力」「コミュニケーション力」を育てていくことを年間指導計画に体系的に位置付け,座学的ではなく生徒が主体的に学習することにより,他者とともによりよく生きようとする態度や規範等が育成されている。

キーワードによって目指す方向を一致させた学校全体の共通認識が基盤にあり,綿密な計画のもとに各教科等との系統性やP D C Aのサイクルを踏まえた取組が,実践をより効果的なものとしている。